

西洋建築史第4回

中世1 - 古代の継承と消失

中島 智章

序.黄昏のローマ世界

Constantinusのミラノ勅令(313) 帝国統一(324) 同帝洗礼(337) Theodosius帝のキリスト教国教化=異教禁止令(391)
テオドシウス帝の後継者二人に帝国を二分 西ローマ帝国(~476)と東ローマ帝国(ビザンツ帝国、~1453)
ゲルマン民族大移動(~375~568~) 東西ゴート族、ヴァンダル族、ブルグンド族、フランク族、ロンゴバルト族…
西ゴートのAlaricus、東ゴートのTheodoricus、フランクのClovis(メロヴィング朝、486-751) 王妃Clotildeのすすめで改宗
西ローマ帝国の復興=Carolus戴冠(800) ローマ教皇とフランク国王の協力 ローマ教皇領の成立=小ピピン寄進(754)
カロリング朝分裂=ヴェルダン(843)、メルセン(870)条約 西フランク王国(~987)、中央帝国(~875)、東フランク王国(~911)

1.初期キリスト教建築

「聖座」=「使徒座」の勃興(聖ペテロの後継者たち) 「皇帝のローマ」から「教皇のローマ」へ Byzantium遷都(330)
ニケーア公会議(325) アリウス派を退けアタナシウス派の教説が採られる 三位一体説(父と子と聖霊)へ
聖ヒエロニムス(『ウルガータ訳聖書』)、聖アンブロシウス(ミラノ司教)、聖アウグスティヌス(『告白録』、『神の国』 413-426)
Constantinus帝による聖ペトルス(ペテロ)大聖堂(現存せず) 五廊式のバシリカ式教会堂、Atrium、Narthex、高窓
同帝はサン=ジョヴァンニ=イン=ラテラーノ大聖堂(ローマ司教座聖堂)、サン=パオロ=フォーリ=レム=ラ大聖堂も建立
サン=ロレンツォ=マッジョーレ教会(ミラノ) 四方にアプスがある独特の集中式平面、付属礼拝堂に創建当初のモザイク
サンタ=マリア=マッジョーレ大聖堂(ローマ) 三廊式、身廊+側廊×2、アプス、イオニア式列柱、小屋組 ローマの四大教会
サンタ=マリア=アド=マルティーレス教会(ローマ) パンテオン(ローマ)が7世紀に教会へ転用されている
古代神殿の教会への転用例は多い アントニヌス・ピウスとファウスティナーの神殿 サン=ロレンツォ=イン=ミランダ(1602)
サンタンジェロ(ローマ) ハドリアヌス廟の頂上に礼拝堂(聖グレゴリウス 大天使ミカエルが剣を鞘に収める幻を視た)
廃墟のローマ:すでにハドリアヌス帝治下に帝都の人口は半減 アウレリアヌスの城壁 * Constantius IIのローマ訪問(357)

2.ビザンツ建築

千年の都Constantinopolis…「異教の都」ローマに対して「キリスト教の都」を指向
かつての「ローマ帝国」復興を達成したJustinianus大帝だが(527-565)… その後、徐々に東方の一地方勢力に…
ローマ司教のカリク教会との対立(451~)…聖像禁止令(726)、相互破門(1054) 集中式(ドーム・バシリカ、クロス・ドーム)
ユスティニアヌス帝によるハギア=ソフィア大聖堂 煉瓦造、クーボラ(ドーム)架構+pendentive 古代建築最後の輝き
同帝によるラウエンナのサン=ヴィターレ大聖堂 大理石、斑紋岩、金色のクーボラ、モザイク、籠彫の柱頭、八角形
ビザンツ帝国の「中世建築」 8世紀以降、貴族層の個人的礼拝のための教会堂が中心に クロス・イン・スクエア
カロルス大帝(カール大帝、シャルルマーニュ)のアーヘン宮廷礼拝堂 東方的な集中式教会堂(中央に八角形クーボラ)
ヴェネツィア総督宮殿付サン=マルコ礼拝堂(現司教座聖堂) クーボラ架構と金を基調としたモザイク装飾、ギリシア十字形

3.ローマ都市その後

古代末期から中世初期 都市活動が低調になったところもある ローマ都市の遺産がどの程度生かされたかに差が

- 1)ローマ都市の基本構成が残る北イタリア諸都市 古代市壁が囲う長方形市域を核+闘技場が貴族住宅などに転用さる
- 2)ローマ都市に依拠する部分はその立地のみという低地地方諸都市:トウルネ、カンブレ… civitas, castrum, vicus
司教座都市、戦略や水運などによる新たな立地+永久あるいは一時的に消失する都市も *バイキングの襲撃